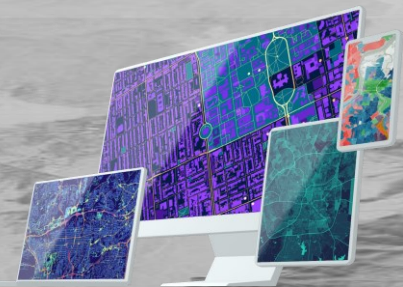


ArcGIS

ArcGIS Enterprise 11.3
機能比較表



はじめに

本ドキュメントは、Esri 社が作成した ArcGIS Enterprise に関する機能比較表である "ArcGIS Enterprise Functionality Matrix" を ESRI ジャパン株式会社が翻訳・更新したものになります。
また、日本国内ではサポートしていない製品、機能もございますので、動作環境についての Web ページ(https://www.esri.com/products/arcgis-enterprise/environments/11_3)も併せてご確認ください。

目次

ArcGIS Enterprise の配置	3
ライセンス	4
ユーザー ロールおよびライセンス	8
ジオデータベースのケイパビリティ	10
サポートされるデータベース & データ接続	11
Kubernetes	13

凡例

- ：利用可能
- ：追加可能
- 空欄：利用不可

ArcGIS Enterprise のデプロイ

ArcGIS Enterprise には、Windows、Linux および Kubernetes の 3 つのデプロイ オプションがあります。

Windows と Linux の場合、ArcGIS Enterprise の各コンポーネントを手動で順番にインストールおよび設定することができます。また、ArcGIS Enterprise のデプロイ プロセスを自動化することができます。

ArcGIS Enterprise デプロイ自動化ツールのいずれかを使用して自動化することができます。

Kubernetes ※1 へのデプロイに関心のあるユーザーは、Kubernetes クラスタが利用可能であることと、Kubernetes 環境の管理に関する適切な専門知識が必要です。

※1 Kubernetes の詳細については、「Kubernetes」のセクションを参照してください。

次の表は、ArcGIS Enterprise の Windows および Linux 用の自動化ツールに共通するデプロイ特性を比較したものです。

デプロイ特性	自動化ツール				
	ArcGIS Enterprise Builder	Chef	PowerShell DSC	AWS	Azure
クライアント環境		○	○	○	○
オンプレミス環境	○	○	○		
Windows OS	○	○	○	○	○
Linux OS	○	○		○	
単一マシン構成	○	○	○	○	○
複数マシン構成		○	○	○	○
高可用性構成		○	○	○	○
ArcGIS Enterprise 基本構成のセットアップ	○	○	○	○	○
構成のアップグレード ※2	○	○	○	○	○
構成に関する設定テンプレート		○	○	○	
構成に関するマシン イメージ				○	○
コマンドライン インターフェース	○	○	○	○	○
ウィザード インターフェース	○			○	○

※2：これらのツールを使用して、ArcGIS Enterprise をデプロイした場合、これらのツールを使用してアップグレードできます。

凡例

○：利用可能 空欄：利用不可

ライセンス

・ ArcGIS Enterprise Standard および Advanced

ArcGIS Enterprise には、Standard および Advanced の 2つの異なるエディション ライセンスがあります。

ArcGIS Enterprise Standard には、ジオデータベース管理と、ArcGIS GIS Server Standard が提供するすべての種類の Web サービスへのアクセスが含まれます。これにより、Web 用のマップ利用、フィーチャ サービスを使用した Web ベースの編集のサポート、および ArcGIS Desktop Standard に含まれる任意のツールからジオプロセッシング サービスを公開することができます。また、ArcGIS Enterprise ポータルを介して、マップ、アプリ、およびその他の地理情報を組織内のすべての人と共有できます。

ArcGIS Enterprise Advanced では、Standard エディションのすべての機能に加えて、ArcGIS Desktop Advanced に含まれる任意のツールからジオプロセッシング サービスを公開する機能や 3D および Spatial Analyst ツールの機能も、Advanced エディションに含まれます。その他のエクステンションはすべてオプションで ライセンスが必要です。

・ ArcGIS GIS Server Basic

ArcGIS GIS Server Basic は、主にエンタープライズ ジオデータベース機能を提供する機能限定型のソフトウェアです。

また、フィーチャ サービスおよびジオデータ サービスの公開（編集は不可）機能も備えています。

ArcGIS GIS Server Basic は、ArcGIS Enterprise 配置の一部として連携させることやホスティングサーバとして指定したりすることはできません。

・ サーバーのケーパビリティ

サーバーのケーパビリティ	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
Windows OS へのインストール	○	○
Linux OS へのインストール	○	○
クラウド環境でのインストール	○	○
オンプレミス環境でのインストール	○	○
オフライン環境下でのデプロイ	○	○
スクリプトと自動ワークフロー	○	○
分析モデルとモデル チェーンの作成	○	○
Web 上でのデータ編集	○	○
OGC Web サービスのサポート	○	○
住所情報から位置情報への変換（ジオコーディング）	○	○
オフライン環境下での編集	○	○
ジオプロセッシング ツールと Web ツールの公開	○	○
ArcGIS 3D Analyst ツールの公開 ※3	○	
ArcGIS Spatial Analyst ツールの公開 ※3	○	
ビッグデータの処理と分析	○	○

・ ホスト レイヤーの種類

ホスト レイヤーの種類	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
フィーチャ レイヤー	○	○
マップ イメージ レイヤー	○	○
シーン レイヤー	○	○
ラスター タイル レイヤー	○	○
ベクター タイル レイヤー	○	○

・ コンテンツ

コンテンツ	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
ArcGIS Living Atlas of the World	○	○
ArcGIS StreetMap Premium	●	●

※3：対応する ArcGIS Pro のエクステンションを保持している場合にのみ適用可能です。

凡例
○：利用可能 ●：追加可能 空欄：利用不可

・サービスの種類

サービスの種類	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
キャッシュ サービス – マップ、イメージ	○	○
ダイナミック マップ サービス	○	○
フィーチャ サービス	○	○
ジオコーディング サービス	○	○
ジオデータ サービス	○	○
ジオメトリ サービス	○	○
ジオプロセシング サービス	○	○
イメージ サービス – 単ーラスター	○	○
ネットワーク サービス ※4	○	○
パーセル ファブリック サービス	○	○
印刷サービス	○	○
ユーティリティ ネットワーク サービス	○	○

・エクステンション

エクステンション	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
ArcGIS Network Analyst	○	●
ArcGIS LocateXT	●	●
ArcGIS Data Interoperability	●	●
ArcGIS Data Reviewer ※5	●	●
ArcGIS Workflow Manager ※5	●	●
ArcGIS for Maritime ※5	●	●
ArcGIS Defense Mapping ※5	●	
ArcGIS Production Mapping ※5	●	●
ArcGIS Roads and Highways ※5	●	●
ArcGIS Pipeline Referencing ※5	●	●

・入力データの種類

入力データの種類	ArcGIS GIS Server Advanced	ArcGIS GIS Server Standard
3D フィーチャ	○	○
3D シーン	○	○
住所ロケータ	○	○
ビッグデータ – フィーチャ	○	○
フィーチャ データ	○	○
画像/ラスター データ – 単ーラスター	○	○
3D メッシュ	○	○
LIDAR/テレイン データ – 単ーラスター	○	○
マルチパッチ データ	○	○
パーセル ファブリック	○	○
点群	○	○
表形式データ	○	○
ユーティリティ ネットワーク	○	○

※4：ArcGIS Network Analyst エクステンションが必要です。

※5：Windows OS のみ利用可能です。

凡例

○：利用可能 ●：追加可能 空欄：利用不可

・サーバーのケーパビリティ

サーバーのケーパビリティ	ArcGIS GeoAnalytics Server	ArcGIS GeoEvent Server	ArcGIS Image Server	ArcGIS Knowledge Server	ArcGIS Notebook Server ※6	ArcGIS Workflow Manager Server	ArcGIS Video Server
Windows OS へのインストール	○	○	○	○	○	○	○
Linux OS へのインストール	○	○	○	○	○	○	○
クラウド環境でのインストール	○	○	○	○	○	○	○
オンプレミス環境でのインストール	○	○	○	○	○	○	○
オフライン環境でのインストール	○	○	○	○	○	○	○
スクリプトと自動ワークフロー	○	○	○	○	○	○	○
分析モデルとモデル チェーンの作成	○	○	○		○		
Web 上でのデータ編集	○	○	○	○	○	○	
OGC Web サービスのサポート			○				
住所情報から位置情報への変換 (ジオコーディング)	○				○		
画像とラスターの動的なモザイク処理			○				
動的ラスター処理と解析			○				
ビッグデータの処理と分析	○	○	○		○		
ストリーミング データのリアルタイム解析		○					
位置情報を活用した通知		○					
ジオフェンスの作成および監視		○					
データ サイエンス Python ライブラリの使用	○				○		
ビルドイン スケジュールの活用					○	○	
ノートブック スナップショットの利用					○		
グラフ データベースへの接続と保存				○	○		
ライブストリーミングとオンデマンドのビデオレイヤーの作成							○

・サービスの種類

サービスの種類	ArcGIS GeoAnalytics Server	ArcGIS GeoEvent Server	ArcGIS Image Server	ArcGIS Knowledge Server	ArcGIS Notebook Server ※6	ArcGIS Workflow Manager Server	ArcGIS Video Server
キャッシュ サービス - マップ、イメージ			○				
ジオプロセシング サービス ※7	○		○				
イメージ サービス - モザイク データセット			○				
イメージ サービス - 単ーラスター			○				
すぐに使える Jupyter Notebook					○		
ストリーム サービス		○					
ナレッジ グラフ サービス				○			
ビデオ サービス							○

・ホスト レイヤーの種類

ホスト レイヤーの種類	ArcGIS GeoAnalytics Server	ArcGIS GeoEvent Server	ArcGIS Image Server	ArcGIS Knowledge Server	ArcGIS Notebook Server ※6	ArcGIS Workflow Manager Server	ArcGIS Video Server
イメージレイヤー			○				
ナレッジ グラフ				○			
ビデオ サービス - ライブストリーム							○
ビデオ サービス - オンデマンド							○

※6：ArcGIS Notebook Server は Linux 環境での構築が推奨されています。

※7：サーバー内に事前設定されているもののみで、
ジオプロセシング サービスを追加したり変更したりすることはできません。

凡例

○：利用可能 空欄：利用不可

・ 入力データの種類

入力データの種類	ArcGIS GeoAnalytics Server	ArcGIS GeoEvent Server	ArcGIS Image Server	ArcGIS Knowledge Server	ArcGIS Notebook Server ※8	ArcGIS Workflow Manager Server	ArcGIS Video Server
3D フィーチャ					○		
3D シーン					○		
ビッグ データ – フィーチャ	○	○			○		
ビッグ データ – 画像/ラスター			○		○		
フィーチャ データ	○	○	○	○	○	○	
画像/ラスター データ – モザイク データセット			○		○		
画像/ラスター データ – 単ーラスター			○		○		
ラベル付きプロパティ グラフ				○			
LIDAR/テレイン データ – モザイク データセット			○				
LIDAR/テレイン データ – 単ーラスター			○				
パーセル ファブリック					○	○	
点群					○		
ラスター標高サーフェス			○		○		
リアルタイム データ ストリーム		○					
表形式データ	○	○		○	○	○	
ユーティリティ ネットワーク					○	○	
ビデオ ファイル – オンデマンド							○
ライブストリーム ビデオ – UDP、RTSP、RTMP							○

※8：ArcGIS Notebook Server は Linux 環境での構築が推奨されています。

凡例

○：利用可能 空欄：利用不可

ユーザー ロールおよびライセンス

・ポータル のケーパビリティ

ポータル のケーパビリティ	ユーザー ロール				
	閲覧者	データ編集者	ユーザー	公開者	管理者
データ、レイヤー、Web マップ、アプリケーションの参照	○	○	○	○	○
マップ上でのデータの可視化	○	○	○	○	○
データの三次元表示	○	○	○	○	○
データの動的な検索とフィルタリング	○	○	○	○	○
場所の検索（ジオサーチ）	○	○	○	○	○
ターngoとのルート案内の生成	○	○	○	○	○
データの表示スタイル（シンボル）変更	○	○	○	○	○
距離の計測	○	○	○	○	○
アイテムの追加、作成			○	○	○
レイヤー、サービスの公開				○	○
住所情報から経緯度情報の変換（ジオコーディング）			○	○	○
レイヤー、Web マップの保存			○	○	○
データ、レイヤー、Web マップの共有			○	○	○
Web マップから Web アプリケーションの作成			○	○	○
データの編集		○	○	○	○
新しいアイテムとして保存			○	○	○
データの解析			○	○	○
グループによるコンテンツの保護			○	○	○
データ、レイヤー、Web マップ、アプリケーションへのセキュリティ設定			○	○	○
既存データからのビューの作成				○	○
独自の Web サイト、ページの作成			○	○	○
分散コラボレーションの作成や管理					○
ライセンスの管理					○
メンバーの追加と管理					○
メンバー アカウントの無効化					○
メンバーの削除					○

・ユーザー タイプ別に指定できるロール

ユーザーロールと互換性のあるユーザー タイプ	ユーザー ロール				
	閲覧者	データ編集者	ユーザー	公開者	管理者
GIS Professional	○	○	○	○	○
Creator	○	○	○	○	○
Mobile Worker	○	○			
Editor	○	○			
Viewer ^{※9}	○				

※9：Viewer ユーザーが利用できる機能には制限があります。

・ユーザー タイプ エクステンション

ユーザー タイプ エクステンション	ユーザー タイプ						
	Viewer	Editor	Mobile Worker	Creator	GIS Professional Basic	GIS Professional Standard	GIS Professional Advanced
ArcGIS Advanced Editing	● ^{※10}	●	●	●	●	○	○
ArcGIS IPS		●	●	●	●	●	●
Location Sharing			○	●	●	●	●

凡例

○：利用可能 ●：追加可能 空欄：利用不可

・ 初期購入時に付属するユーザー タイプ

ArcGIS Enterprise エディション/レベル	ユーザー タイプ	
	Creator	Viewer
ArcGIS Enterprise Standard	5	Unlimited
ArcGIS Enterprise Advanced	50	Unlimited

注意：本ドキュメントに記載されている情報は、Enterprise Agreement (EA) や教育サイト ライセンスなどの特別なプログラムには適用されません。付属する指定ユーザー エンタイトルメントの詳細な情報は、ESRIジャパンまでお問い合わせください。

補足：Viewer ユーザー タイプは、以前のリリースのレベル 1 指定ユーザーと同等の機能を有し、Creator ユーザー タイプはレベル 2 指定ユーザーと同等の機能を有しています。

ジオデータベースのケーパビリティ

・データタイプの編集機能

データタイプの編集機能	ユーザー タイプ		
	Editor	Mobile Worker Creator GIS Professional Basic	GIS Professional Standard GIS Professional Advanced
フィーチャ データ	●	●	●
テーブル データ	●	●	●
関連データ (関連クラス経由)	●	●	●
添付ファイル	●	●	●
アノテーション (標準またはフィーチャリンク)	○※10、13	○※10、13	●
ディメンション	○※10、13	○※10、13	●
ジオデータベース トポロジのフィーチャ	○	○	●
ユーティリティ ネットワークのフィーチャ	○	○	●
トレース ネットワークのフィーチャ	○	○	●
パーセル ファブリックのフィーチャ	○	○	●

・ブランチバージョン管理

ブランチバージョン管理	ユーザー タイプ		
	Editor	Mobile Worker Creator GIS Professional Basic	GIS Professional Standard GIS Professional Advanced
バージョン変更とバージョンデータの表示	●	●	●
バージョンの作成	○※10、13	○※10、13	●
バージョン データの編集	○※10、13	○※10、13	●
バージョンのリコンサイルとポスト	○※10、12	○※10、12	●
競合の検出と解決	○※10、12	○※10、12	●
バージョンの管理 (所有者の変更、削除など)	○※10、12	○※10、12	●
バージョンの違いの検出	○※10、12	○※10、12	●

・オフラインでのデータ操作

オフラインでのデータ操作	ユーザー タイプ		
	Editor	Mobile Worker Creator GIS Professional Basic	GIS Professional Standard GIS Professional Advanced
フィーチャ データの表示とクエリ	●	●	●
フィーチャ データの更新のダウンロード (一方向同期)	●	●	●
ユーティリティ ネットワーク、トレース ネットワーク、パーセル ファブリック フィーチャの表示とクエリ	●	●	●
ユーティリティ ネットワーク、トレース ネットワーク、パーセル ファブリック フィーチャの更新のダウンロード (一方向同期)	●※11	●※11	●
フィーチャ データの編集と更新のポスト (ブランチバージョン管理による双方向同期)		○※10、13	●
フィーチャ データの編集と更新のポスト (ブランチバージョン管理なし)		●	●
ユーティリティ ネットワーク、トレース ネットワーク、パーセル ファブリック フィーチャの編集と更新のポスト (ブランチバージョン管理による双方向同期)		○	●

※10：ArcGIS Indoors、ArcGIS Roads and Highways、ArcGIS Pipeline Referencing のライセンスでもサポートされます。

※11：ArcGIS Maps SDK for Native Apps リリース 200.3 以降で作成されたアプリから、ArcGIS Enterprise 11.2 以降のデータに対して作業する場合、UTE なしでもユーティリティ ネットワーク データの一方向の同期がサポートされるようになります。

※12：更新は ArcGIS Enterprise 11.2で有効になります。

※13：更新は ArcGIS Enterprise 11.3で有効になります。

凡例

- ：追加ライセンス必須 (ArcGIS Advanced Editing user type extension)
- ：指定ライセンスによるサポート 空欄：利用不可

サポートされるデータベース & データ接続

エンタープライズ ジオデータベースおよびクエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類
Amazon Aurora PostgreSQL ※14 Amazon RDS for Microsoft SQL Server ※14 Amazon RDS for Oracle ※14 Amazon RDS for PostgreSQL ※14 Google Cloud SQL for PostgreSQL ※14 Google Cloud SQL for SQL Server ※14 Microsoft Azure Database for PostgreSQL ※14 Microsoft Azure SQL Database ※14 Microsoft SQL Server PostgreSQL SAP HANA SAP HANA Cloud ※14 Oracle Oracle Autonomous Transaction Processing ※14 Oracle Co-managed systems Virtual Machine DB Systems ※14
クラウド 環境でサポートされるデータ ウェアハウスの種類
Amazon Redshift Google BigQuery Snowflake

クエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類
Dameng Microsoft Azure Cosmos DB for PostgreSQL SQLite Teradata
ArcGIS GeoAnalytics Server でサポートされる入力データ
ホスト フィーチャ レイヤー フィーチャ サービス ストリーム サービス ビッグデータ ファイル共有 - Apache Hadoop HDFS ※15 - Apache Hive - Amazon S3 and S3-compatible storage ※15, 16 - Azure Data Lake Storage ※15, 16 - ローカルおよびネットワーク ファイル共有 ※15, 16 - Microsoft Azure Storage ※15
ArcGIS Knowledge Server でサポートされるデータベースの種類
Neo4j

ラスター解析を実行する際にArcGIS Image Server でサポートされるラスター ストア
Alibaba Cloud Object Storage Service (OSS) Amazon S3 and S3-compatible storage Azure Data Lake Storage ローカル ファイル共有 Microsoft Azure Storage Google Cloud Storage
ArcGIS GeoEvent Server でサポートされる入力データ ※17
ホスト フィーチャ レイヤー フィーチャ サービス ストリーム サービス ローカルおよびネットワーク ファイル共有 Kafka ネットワーク プロトコル - HTTP - TCP - UDP - RSS - WebSocket

※14：クラウド上にホストされているデータベースを使用するには、ArcGIS Enterprise をデータベースと同じクラウド環境内に配置する必要があります。

※15：GeoAnalytics Server は解析結果をこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。

※16：シェーブファイル、Parquet、ORC、区切りファイルがサポートされています。

※17：入力データソースに対応したサポート ソフトウェアは同梱されています。

また、GeoEvent Server はこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。

ArcGIS GeoEvent Gallery または ArcGIS GeoEvent Partner Gallery から入力コネクタをソフトウェアに追加することで、リストに記載されているデータソースに加えて、他のデータソースも入力データとして使用することが出来ます。

クラウド環境のサポート

システム要件を満たすインフラストラクチャを使用して、任意のクラウド プラットフォームに ArcGIS Enterprise を導入することができます。Amazon Web Services および Microsoft Azure の場合、ArcGIS Enterprise には事前構築されたイメージとデプロイメント ツールが付属しているため、デプロイメントのインストールと構成をさらに容易に行うことができます。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、Amazon Elastic Kubernetes Service、Microsoft Azure Kubernetes Service、Google Kubernetes Engine 、Red Hat Open Shift 、および Rancher Kubernetes Engine ベースのプライベート クラウド環境にデプロイすることができます。

ArcGIS Enterprise はクラウドネイティブストレージとクラウド管理されたデータベースをサポートしています。概要についてはこの機能比較表をご覧ください。また、各クラウドストアでサポートされている機能の詳細については、各ドキュメントをご覧ください。

クラウド ネイティブ ストレージは以下のものを含みます。

- Amazon S3 and S3-compatible storage
- Microsoft Azure Storage
- Alibaba Cloud OSS
- Google Cloud buckets

OGC および Open Web サービスのサポート

Esri の Open Vision に従い、ArcGIS Enterprise は、以下の Open Geospatial Consortium, Inc. (OGC) および Open Web サービスをサポートします。

- Web Map Service (WMS)
(versions 1.0, 1.1, 1.1.1, and 1.3)
- Web Feature Service (WFS)
(versions 1.0, 1.1, and 2.0)
- Web Coverage Service (WCS)
(versions 1.0.0, 1.1.0, 1.1.1, 1.1.2, and 2.0.1)
- Web Map Tile Service (WMTS)
(version 1.0)
- Web Processing Service (WPS)
(version 1.0)
- Keyhole Markup Language (KML)
(version 2.2)
- GeoJSON
- OGC API

ArcGIS Image Server は上記と同じバージョンの Web Coverage Services を公開できます。

セキュリティ、認可、および認証

ArcGIS Enterprise は、アクセス管理やセキュアなリソースの権限設定など強固で効果的なセキュリティ フレームワークを提供します。セキュリティの構成は以下の機能を提供します。

- Web 層認証 (IWA, PKI)
- 多要素認証を利用したGIS 層認証 (ビルトイン)
- SAML 2.0 と OpenID Connect アイデンティティ プロバイダの統合
- エンタープライズ グループ
(Active Directory, LDAP, SAML 2.0)
- TLS 1.2 , 1.3および後方互換性としての TLS 1.1 および TLS 1.0 のオプション サポート

Kubernetes

・ ArcGIS Enterprise on Kubernetes

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、Amazon Elastic Kubernetes Service、Azure Kubernetes Service、Google Kubernetes Engine、および Red Hat OpenShift ベースのプライベート クラウドを使用したクラウドでのデプロイメントが可能です。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、マイクロサービスとコンテナ化の原則に基づいてクラウド ネイティブ アーキテクチャを提供します。予期せぬサービスの需要に対応するための動的なスケーリングの実現、デプロイメントとアップグレードの合理化、およびインフラストラクチャ リソースの最適化など大きなメリットがあります。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、既に Kubernetes に精通している組織における(複雑な)マルチマシン デプロイメントを対象としています。

詳細については、Kubernetes システム パターンの ArcGIS Architecture Center (<https://architecture.arcgis.com/en/>)、リリースノート (<https://architecture.arcgis.com/search/?q=kubernetes&collection=&language=jp>) をご確認ください。

お問い合わせはこちら (<https://www.esri.com/form/inquiry/>) まで。

以前のバージョンの機能比較表

- ・ ArcGIS Enterprise 11.2 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 11.1 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 11.0 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.9.1 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.9 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.8.1 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.8 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.7.1 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.7 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.6.1 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.6 機能比較表
- ・ ArcGIS Enterprise 10.5&10.5.1 機能比較表

ArcGIS Enterprise 11.3 機能比較表